

# 佐藤氏を讃ふ

K · I 生

秋田縣土木課長に榮轉した佐藤東次郎氏が、故郷へ錦を飾つた歡喜も束の間。肝心の昭和十四年度道路費を、經常

部で壹萬參千七百五拾壹圓、臨時部で九萬九百七拾五圓、

計拾萬四千七百貳拾六圓を削減され、酷くクサつてゐたこ

とは、既に御承知のことと思ふ。間もなく上京した佐藤氏

が、汗みどろの辯明に努めた態度には、思はず同情の涙を

咬つたが、熱血佐藤氏にして此の醜態を演ずるとは、誰が

豫想し得たであらう。

酬ひられざる努力、顧られざる奮闘ほど悲惨な喘ぎはな

い。佐藤氏にしては、泣き切れぬ無念と、押へ切れぬ忿懣

とで、逆上しそつたであつたに違ひない。然し、我等に示し

た宣言は、「必死に戦ふ」の頼母しい一言であつた。

其の後、寂として聲なきまゝに、秋が訪れた。そして、

秋の嬉しい便りが舞ひ込んだ。

拜啓。時下秋冷之候、愈々御清穆之段奉大賀候。

陳者、本縣道路行政に關しては、格別の御高配を辱ふ

し、難有奉深謝候。扱、本縣道路費は、縣財政の關係上

削減の止むなきに至り、大に遺憾に存候處、其の後、機

會ある毎に、少しづつ財源を求めて増額、別表の通りの

結果と相成、御蔭を以て、人夫賃高騰の折柄にも不拘、

立派な路面を維持し居候。是偏に、貴官御盡力の賜物と

深く感謝在罷候

先は、御禮旁々右御報知申上度、如斯御座候。

敬具

昭和十四年十一月一日

近藤事務官殿

佐藤秋田縣土木課長

(別表)

經常部土木費

科 目

十四年度  
當初豫算

六月 七月 八月 十月 計

豫算現額

十三年度  
豫算現額 増比 減較

第一項 道路修繕費

第一目 道路修繕費

第二目 橋梁修繕費

第三目 渡船修繕費

第四目 並木費

第五目 標柱費

第六目 道路橋梁保護費

臨時部土木費

科 目

十四年度  
當初豫算

四月 五月 八月 十月 計

豫算現額

十三年度  
豫算現額 増比 減較

第一項 道路橋梁費

第一目 橋梁費

第二目 交通狀勢調査費

説 苑

三、五五五  
三、八〇〇  
一、三六九

四月 五月 八月 十月 計

三、六六六  
三、〇〇〇  
四、一三三  
三、〇二〇  
一三、八二〇

一、五八三  
一、五八〇  
一、〇〇〇  
一、三六九

第三目 雜費	三五六	—	—	—	三五六	四八〇	△ 一四四
第四目 道路鋪裝費	五,一九〇	—	—	—	二四,一〇〇	二九,四〇〇	五〇,〇〇〇
第五目 道路鋪裝費	—	三,〇〇七	—	—	六,〇〇〇	三,〇〇七	三,〇〇七
第六目 復舊工事費	—	四,一四七	—	—	—	八,五〇九	—
豫算表を凝視してゐた近藤氏の顔が、秋の陽光を一杯に浴びて綻び、握つたペンが音をたて、滑走する。							

近藤事務官

貴翰拜誦仕候。

佐藤土木課長殿

貴縣に於ける、本年度道路豫算の削減に關しては痛く憂慮し、之が復活を只管貴官の手腕に俟ち居候處、其の後數回に亙りて、追加豫算の實現に盡力せられ、新に、拾五萬八千參百七拾四圓を計上し、前年度に比し、五萬參千餘圓の増額を看たるは、誠に欣快至極に有之、貴官の強き信念と、責任感とに衷心敬服仕候。

愈々、來年度の豫算編成期に直面し、一入御多忙のことゝは存候得共、來年度道路豫算に付ては、尙一層の頑張り、御奮闘を心から期待致居候。

敬白

十一月六日

「必死に戦ふ」の宣言は、遂に現實となつて、我々の眼前に展開したのだ。何たる美觀であらう。何たる壯觀であらう。よくやつた。本當によくやつた。これでこそ、佐藤氏の男もたち、時局下に於ける道路の重要性を、滿天下に確證したことゝなる。當に、滿壘に放つたホームランの感激が湧く。

此の赫々たる戦果は、無論、佐藤氏の不撓不屈の攻撃精神に基因する所ではあるが、近藤氏一流の督勵と、慈愛に溢れる阿部總務部長の明晰とにこそ、無限の感謝を捧ぐべきではなからうか。

佐藤氏の健闘を祈り、敢て、全土木部課長の發奮を希ふ。